

---

---

法政  
大学 大原社会問題研究所 2019 年度の歩み

---

---

I 特記事項

- 1 100周年記念展示
- 2 第32回国際労働問題シンポジウム「ILO（国際労働機関）と日本」の大阪での開催
- 3 『大原社会問題研究所100年史』の刊行
- 4 学内への貢献と協力
- 5 調査・研究活動
- 6 対外活動
- 7 研究所指定寄付金

II 諸活動

- 1 『大原社会問題研究所雑誌』
- 2 『日本労働年鑑』
- 3 環境アーカイブズ
- 4 月例研究会
- 5 刊行物
- 6 会合・シンポジウム・講演会等
- 7 研究会・共同研究プロジェクト
- 8 100周年記念事業準備委員会・100年史編纂委員会
- 9 図書・資料の収集・整理、閲覧公開
- 10 インターネットによる情報の提供（ホームページ、データベースなど）
- 11 対外活動・社会支援等
- 12 外部資金・寄付
- 13 人事

2019年度の研究所の活動は基本的に、①調査・研究活動、②専門図書館・文書館としての活動、③『日本労働年鑑』の編纂・発行、④『大原社会問題研究所雑誌』の編集・刊行、⑤復刻・出版事業、⑥Webサイトによる情報発信と研究支援という6つの柱から構成される。

1919年に設立された大原社会問題研究所は、これまでの一世紀の歴史を礎として、これからの一世紀の活動を見据え、日本の社会労働問題研究の国際的な研究拠点となることを目標としている。さらに当研究所を従来にもまして法政大学の教員、大学院生、学生そして地域に広く開かれたものとし、法政大学と本研究所の評価を高めるべく、国内外の研究者・研究機関との交流を行うように努力している。

I 特記事項

1 100周年記念展示

2018年度に研究所入り口に新たな展示スペースを設けて「創立100周年記念展示」を開始し、同年度は第1回「初代所長高野岩三郎と高野房太郎」～第4回「堺家・近藤家関係資料」を公開した。2019年度は、第5回「貴重書庫」、第6回「月島調査」、第7回「水平社」、環境アーカイブズの特別展「消えたふるさと、使われない水——岐阜県・徳山ダム建設反対運動裁判資料を読む」を実施した。展示を記録した図録『大原社会問題研究所創立100周年記念展示』も刊行した。第1回～第8回の展示（特別展を除く）のタイトルと写真、各展示の解説で和文、英文で記録したもので、法政大学大原

社会問題研究所社会問題史研究会編で刊行された。(92 頁 II -7-(2) 参照)

また、HOSEI ミュージアムプレ企画／大原社会問題研究所 100 周年・法政大学合併 70 周年記念 特別展示「社会問題研究のフロンランナー——研究所の創立から合併まで」(10 月 1 日～20 日)が法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー博物館展示室で実施された。この展示は、1919 年の研究所創設から 1937 年の東京移転を経て、1949 年に法政大学と合併するまでの研究所の活動に焦点を当て、当時の研究員が収集した貴重な洋書や 1918 年の米騒動資料、月島調査や水平社、堺利彦に関する資料など現在の所蔵資料を通して、社会問題の解決を目指したフロンランナーの姿に迫るものであった。開催中に 199 人が来場した。

## 2 第 32 回国際労働問題シンポジウム「ILO (国際労働機関) と日本」の大阪での開催

1919 年に設立された ILO は 2019 年創立 100 周年を迎えた。そのため、ILO 駐日事務所と法政大学大原社会問題研究所で共催してきた国際労働問題シンポジウムも趣向を変え、大原社会問題研究所誕生の地である大阪で実施した(2019 年 11 月 11 日)。田口晶子氏 (ILO 駐日代表) が「第 108 回 ILO 創設 100 周年記念総会について」報告し、吾郷真一氏 (立命館大学衣笠総合研究機構教授・九州大学名誉教授・ILO 条約勧告適用専門家委員会委員) による基調講演「ILO と日本」と石井聡氏 (近畿大学経済学部教授) による「ILO 第 1 号条約と労働時間問題」、榎一江専任研究員による「国際労働会議代表問題と大原社会問題研究所」の個別報告をふまえ、パネルディスカッションを行った。参加者は 129 人であった。

## 3 『大原社会問題研究所 100 年史』の刊行 法政大学大原社会問題研究所編『大原社会問

題研究所 100 年史』が 2020 年 3 月に法政大学出版局から刊行された。2019 年度の大原社会問題研究所叢書として刊行された同書は、1919 年 2 月の大原社会問題研究所の創立から 2019 年までの研究所 100 年の歴史を記録したものである。大原社研は、すでに 30 年史、50 年史を刊行しているが、100 年史は 1969 年以降の研究所の諸活動の歴史を叙述するとともに、30 年史、50 年史ではカバーされなかった研究所や研究所に関係する人物に関する最近の研究成果も内容に反映させた。

## 4 学内への貢献と協力

研究所による法政大学内や周辺地域への貢献と協力は、下記の通りである。

### (1) 法政学への招待 (法政学講義)

鈴木玲専任研究員が、市ヶ谷キャンパスで開講された「法政学への招待 (法政学講義)」で大原社会問題研究所の歴史と現状について講義した (6 月 21 日)。

### (2) 大原社研シネマ・フォーラム

「大原社研シネマ・フォーラム」(第 11 回)では、映画「SEED ～生命の糧～」の上映後、島本美保子社会学部教授による解説、北原瞬氏と島本教授による対談が行われた。(92 頁 II -6-(5) 参照)

### (3) HOSEI ミュージアム開設準備委員会への協力

2020 年 4 月の開設を目指し、HOSEI ミュージアム開設準備委員会が開催され (4 月 22 日、6 月 4 日、7 月 11 日、9 月 17 日、10 月 21 日、11 月 29 日、1 月 20 日、2 月 28 日)、大原社会問題研究所からは榎専任研究員が委員として参加した。また、デジタルアーカイブ作業部会 (5 月 23 日、6 月 17 日、7 月 18 日、9 月 2 日、10 月 7 日、11 月 18 日) にも協力し、所蔵資料の提供も行った。オープニングセレモニーが開催され (2020 年 3 月 23 日) 4 月に開設予定で

あったが、延期となった。

(4) 法政大学連帯社会インスティテュートへの協力

鈴木玲専任研究員が、2015年度より設立された法政大学連帯社会インスティテュート開講の授業「国際労使関係論」を、長峰登記夫氏（法政大学人間環境学部教授）と共同で担当している。また、同インスティテュート1人の修士論文の副査を務めた。

## 5 調査・研究活動

研究所の調査・研究活動を支えるものとして各種の研究会および共同研究プロジェクト、および年鑑編集委員会、雑誌編集委員会がある。

2019年度は、社会問題史研究会、環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会、環境・労働問題研究会、女性労働研究史研究会、大原社会政策研究会、無産政党資料研究会、「子どもの労働と貧困」共同研究プロジェクト、「労働組合法上の「労働者」に関する歴史的総括と新たな解釈の可能性」共同研究プロジェクト、が引き続き活動を継続した。また、「冷戦期、ソ連・東欧社会主義圏と西側世界の文化・学術交流に関する史的考察」共同研究プロジェクト、「貧困と世論」共同研究プロジェクト、「日本資本主義論争の現代資本主義的位相——ポスト〈68年〉における諸概念の再組織化」共同研究プロジェクト、が新たに立ち上がった。(92頁II-7参照)

なお、「環境政策史の学際的研究」共同研究プロジェクト、「現代イギリスの福祉改革と排除の問題」共同研究プロジェクトは活動を終えた。

## 6 対外活動

2019年度には、上記の第32回国際労働問題シンポジウム「ILO（国際労働機関）と日本」（大阪での開催）を行った。それ以外では、社

会政策学会第139回（2019年度秋季）大会を市ヶ谷キャンパスで開催した（2019年10月19日、20日）。大原社会問題研究所と関係が深い社会政策学会の法政大学での開催は、創立100周年記念事業の一環としても位置付けられた。同大会実行委員会は榎一江、鈴木玲、藤原千沙専任研究員が担当し、適宜実行委員会を開催して準備を行った。303人が参加し、盛会であった。なお、学会の開催に当たっては、法政大学より学会開催補助費を得た。

また、イタリアのABMO (Archivio Biografico del Movimento Operaio) によるコミンテルン・プロジェクトへの協力も行い、その成果『コミンテルン100周年記念人物伝(1919-1923)』がミラノで刊行された(*L'Internazionale Comunista nel centenario della sua nascita. Dizionario biografico (1919-1923) [The Communist International in the 100<sup>th</sup> anniversary of the birth. Biographical dictionary (1919-1923)]*, Pantarei publishing house, Milan, Italy, 2019.)。大原社会問題研究所は、このプロジェクトに協力し、日本から初期コミンテルンに参加した人物の評伝を寄稿した(執筆は立本紘之兼任研究員、英訳は鈴木玲専任研究員)。

## 7 研究所指定寄付金

「リーディング・ユニバーシティー法政」募金(LU募金)の一環として大原社会問題研究所指定寄付金を募集している。2019年度は、7件3,563,000円の寄付をいただいた。本年度は、大原社会問題研究所創立100周年・法政大学合併70周年記念シンポジウムの記録・保存に必要な経費として63,180円支出した。研究所は今後、環境アーカイブズの資料一部のデジタル化などにLU募金を使用する予定である。

## II 諸活動

### 1 『大原社会問題研究所雑誌』

月刊誌『大原社会問題研究所雑誌』を発行していることは、当研究所の大きな強みである。研究所の研究会・共同研究プロジェクトの成果発表の場としての役割を担っているほか、学内外に広く門戸を開放した社会労働問題研究の専門学術誌として、この分野の研究促進に寄与している。

本年度は 726～737 号（2019 年 4 月号～2020 年 3 月号）まで全 11 冊を発行した。本年度の特集は、

- ・ 4 月号「第 31 回国際労働問題シンポジウム 持続可能な開発目標（SDGs）とディーセント・ワーク」
- ・ 5 月号「『朝鮮三・一独立運動 100 年』その歴史像の再検討——民族運動史の新たな可能性を探る（1）」
- ・ 6 月号「『朝鮮三・一独立運動 100 年』その歴史像の再検討——民族運動史の新たな可能性を探る（2）」
- ・ 7 月号「『人手不足』と外国人労働者」
- ・ 8 月号「『薬害スモン関係資料の整理と活用』
- ・ 9・10 月号「大原社会問題研究所創立 100 周年・法政大学合併 70 周年記念シンポジウム 社会問題の現在」
- ・ 11 月号「『イギリスの福祉改革と〈排除〉』
- ・ 12 月号「『経済学部』の成立と日本の学知」
- ・ 1 月号「『働き方改革関連法の問題点と課題』
- ・ 2 月号「『東アジア福祉レジームとダブルケア（1）東アジア比較と計量分析』
- ・ 3 月号「『東アジア福祉レジームとダブルケア（2）構造的葛藤と制度的不正義』

であった。

2019 年度に掲載した投稿原稿は 10 本で、2019 年度に受け付けた投稿原稿は 27 本（新規

投稿 18 本、再投稿 9 本）である。新規投稿 18 本のうち、2020 年 5 月までに 2 本が掲載・掲載決定、3 本が継続審査中である。

### 2 『日本労働年鑑』

研究所創立の翌年から、戦中・戦後の 10 年間の中断をのぞいて継続して発行されてきた『日本労働年鑑』は、2019 年度に第 89 集を 6 月に刊行した。内容は、2018 年 1 月から 12 月までの日本の労働運動・労働問題の動向を記録している。構成は、序章と特集を別にして、①労働経済と労働者生活、②経営労務と労使関係、③労働組合の組織と運動、④労働組合と政治・社会運動、⑤労働・社会政策の 5 部構成になっている。冒頭の序章は、前年 1 年間の「政治・経済の動向と労働問題の焦点」について、コンパクトにまとめたものである。「特集」は、労働問題や労働運動に関する中長期的な動向や特に関心と呼んだトピックなどを取り上げているが、第 89 集は、「長時間労働の現在」と「社会保障制度改革と福祉の市場化」の 2 つの特集を組んだ。前者は、日本の労働時間、とりわけ長時間労働をはじめとした「働きすぎ」問題について、日本的な雇用制度に内在する規範意識、就業時間帯の多様化と時間管理・時間配分の柔軟化、休息时间・生活時間の確保といった視角から分析した。後者は、社会保障制度改革による福祉の市場化の動向と問題点を、介護保険と子ども・子育て支援新制度を中心に考察し、安心できる介護保障と保育制度の構築に向けての課題を展望した。なお、第 89 集より、巻末の「事項索引」を廃止するとともに「社会・労働運動年表」の頁数を従来の 12 頁から 16 頁に増やした。これにより、対象年の動向をより詳細に記録できることになった。

### 3 環境アーカイブズ

環境アーカイブズでは、環境問題や市民活動

にかかわる収蔵資料の整理・保存と公開を行っている。担当の専任研究員1名、専門嘱託（アーキビスト）1名、リサーチ・アシスタント3名、および臨時職員1名の計6名の体制で上記の作業に従事している。

2019年度に新規に公開された資料群は、【0018】大崎正治氏寄贈開発・生活環境関係資料（835点）、【0020】境川流域下水道反対運動資料（297点）、【0038】山梨県深沢川流域環境汚染問題関連資料（392点）、【0042】東京都立社会教育会館旧市民活動サービスコーナー所蔵資料（3,439点）の4件である（【 】内は受入番号）。

広報活動について、日常的な取り組みとしてホームページ、ツイッターを継続的に運用しており、ホームページについては2020年3月にサイトデザインをリニューアルした。また、広報誌『法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ・ニューズレター』第5号を刊行した（2020年3月）。

対外活動、調査・研究活動では、立教大学共生社会研究センター共催の公開セミナー「恵みと災害——人間の暮らしと川の関係を再考する」を実施した（12月7日、於・立教大学池袋キャンパス）ほか、「第7回公害資料館連携フォーラム in 倉敷」への参画（12月13～15日）、『大原社会問題研究所雑誌』第730号（2019年8月号）特集「薬害スモン関係資料の整理と活用」の掲載が挙げられる。

研究所100周年記念関係の取り組みとして、環境アーカイブズ特別展「消えたふるさと、使われない水——岐阜県・徳山ダム建設反対運動裁判資料を読む」を実施した（2019年12月9日～2020年1月31日）。

#### 4 月例研究会

毎月一回開催される月例研究会を一層充実させるべく、月例研究会企画担当者（榎専任研究

員）を決め、報告者を積極的に募り、市ヶ谷キャンパスでの開催を試みるなど柔軟に実施して活性化を図った。ツイッター等での宣伝にも努め、学外からの研究者、市民の参加も増えた。2019年年度の研究会は下記の通り。なお『大原社会問題研究所雑誌』は報告者による簡潔な報告を掲載し、外部に公開している。

##### ■第1回

日時：4月13日（土）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー

報告者：米山忠寛氏（客員研究員）

「史学史における日本政治史——分化の検討と現在の課題」

##### ■第2回

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

日時：5月29日（水）

報告者：大和田悠太（兼任研究員）

「『日本型市民社会』の持続と変容——1970年代以降の消費者団体の発展過程を中心に」

##### ■第3回

日時：6月26日（水）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：阿川千尋氏（嘱託研究員・日本女子大学社会福祉学科学術研究員）

「無料低額診療事業の歴史的検討」

##### ■第4回

日時：7月24日（水）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：山本和重氏（東海大学文学部教授）

「戦時下の協調会——「社会政策研究会記録」を中心に」

##### ■第5回

日時：9月26日（木）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード

ド・タワー

報告者：梅崎修氏（法政大学キャリアデザイン学部教授）

「『日本社会党・総評の軌跡と内実——20人のオーラル・ヒストリー』をめぐって」

■ 第6回

日時：10月18日（金）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 14階博物館展示室

「ギャラリートーク（展示解説）」

報告者：榎一江（専任研究員）

「100周年記念展示および特別展示について」

報告者：立本紘之（兼任研究員）

「堺家・近藤家関係資料について」

報告者：伊東林蔵（兼任研究員）

「稀観書について」

報告者：伊東久智（兼任研究員）

「月島調査・水平社について」

■ 第7回

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

日時：11月20日（水）

報告者：堀江有里氏（客員研究員）

「キリスト教における「家族主義」への一考察——クィア神学の観点から」

■ 第8回

日時：12月11日（水）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：横山尊氏（九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者）

「深川正夫の労務管理思想とその実践——三井三池労務管理から大日本産業報国会参画へ」

■ 第9回

日時：2020年1月29日（水）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：伊東久智氏（千葉大学大学院人文科学研究助教授）

「『青年』運動史研究と男性史研究の架橋——第一次大戦後における学生社会運動を事例として」

■ 第10回

日時：3月25日（水）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：鈴木玲（専任研究員）

「『日本労働年鑑』の100年——内容と構成は時代をどのように反映したのか」

5 刊行物

(1) 『大原社会問題研究所雑誌』726～737号（2019年4月号～2020年3月号）

各号本体926円＋税

731・732号は合併号で本体1,852円＋税

(2) 『日本労働年鑑』第89集 旬報社

2019年6月 A5判 527頁

本体15,000円＋税

(3) 法政大学大原社会問題研究所叢書

法政大学大原社会問題研究所編『大原社会問題研究所100年史』法政大学出版局

2020年3月 A5判本文223頁，附録63頁

本体3,600円＋税

(4) 法政大学大原社会問題研究所社会問題史研究会編『大原社会問題研究所創立100周年記念展示』2019年9月

(5) 法政大学大原社会問題研究所ワーキング・ペーパー No.57「棚橋小虎日記（昭和十九年）」2019年11月刊行

6 会合・シンポジウム・講演会等

(1) 研究員総会

日時：2020年2月26日（水）（参加者：28名）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

各研究員の総会・講演会を例年のように開催し、事業の概要等を説明して参加者から研究所の活動についての意見をいただいた。

(2) 運営委員

8月を除き、毎月第3水曜日に開催。

(3) 所員会議・事務会議

毎月第1水曜日に開催。

(4) 国際労働問題シンポジウム

日時：2019年11月11日（参加者：129人）

場所：大阪市中央公会堂

ILOと大原社会問題研究所の創立100周年を記念して第32回国際労働問題シンポジウムを開催した。（87頁I-2参照）

(5) 大原社研シネマ・フォーラム（第11回）

日時：2019年11月28日（木）（参加者：97人）

場所：法政大学多摩キャンパス EGG DOME

映画「SEED～生命の糧～」の上映後、島本美保子氏（法政大学社会学部教授）による解説、北原瞬氏と島本教授による対談が行われた。北原氏は社会学部の卒業生で、神奈川県愛川町で「有機農園けのひ」を運営する立場から、有機野菜や伝統的な品種を消費者に受け入れてもらう難しさについてお話し下さった。参加者は97人と盛況で（前年度68人）、うち学部学生は37人（前年度36人）であった。参加者には北原氏が声をかけてくださった同業者や顧客の方が多く、地域社会に開かれたイベントを実現することができた。

(6) 公開講演会

日時：2020年2月26日（水）（参加者：35人）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

公開講演会「鉱業停止要求と原発拒否——足尾銅山の鉱業停止運動の現代的意義としての反原発運動」は、研究員総会と同日に開催された。講演者は菅井益郎氏（國學院大學名誉教授）であった。

## 7 研究会・共同研究プロジェクト

### (1) 社会問題史研究会

代表者：榎一江（専任研究員）、会員4名

協調会研究会の事業を引き継ぐとともに、所蔵資料の収集・整理・調査と社会問題に関する歴史研究を推進するため、2011年度に発足。2013年度より、資料の保存と利用を促進するため復刻事業を本格化するとともに、2018年度より、100周年記念展示を担当。2019年度の活動は下記の通り。

・第1回研究会「100周年記念展示の件」

日時：2019年7月3日（水）

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

・100周年記念展示図録（法政大学大原社会問題研究所社会問題史研究会編『法政大学大原社会問題研究所創立100周年記念展示』、2019年9月30日）の発行

・法政大学大原社会問題研究所『大原社会問題研究所100年史』（法政大学出版局、2020年）の資料作成等編集協力。

・本年度も前年度に続き、研究所入り口に開設された100周年記念展示コーナーの展示を担当。

第5回「貴重書庫展」

第1期 4月15日～5月24日 稀観書

第2期 6月3日～6月28日 エルツバッハー文庫（アナーキズム）

担当：伊東林蔵（兼任研究員）

第6回「月島調査」7月8日～9月20日

担当：伊東久智（兼任研究員）

第7回「水平社」10月2日～11月29日

担当：伊東久智（兼任研究員）

第8回「大阪から東京へ——大原社会問題研究所の東京移転と法政大学との合併」2020年2月10日～3月30日

担当：榎一江、新原淳弘（兼任研究員）

・HOSEI ミュージアムプレ企画／大原社会

問題研究所 100 周年・法政大学合併 70 周年  
記念 特別展示「社会問題研究のフロントラ  
ンナー——研究所の創立から合併まで」

会期：2019 年 10 月 1 日～10 月 20 日

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー  
ド・タワー 14 階博物館展示室

開催に当たって、準備から撤収までを担当す  
るとともに、会期中は交代で展示室勤務に当  
たった。(86 頁 I -1 参照)

・月例研究会「ギャラリートーク（展示解  
説）」、日時：2019 年 10 月 18 日（金）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー  
ド・タワー 14 階博物館展示室

解説者：榎一江

「100 周年記念展示および特別展示について」  
解説者：立本紘之

「堺家・近藤家関係資料について」

解説者：伊東林蔵

「稀観書について」

解説者：伊東久智

「月島調査・水平社について」

## (2) 環境・市民活動アーカイブズ資料整理研 究会

代表者：清水善仁（専任研究員）

本研究会は、環境問題や市民活動にかかわる  
アーカイブズ資料の整理・公開をめぐる諸問題  
について情報共有と意見交換を行いつつ、国内  
外の理論と実践にも学びながら、当該アーカイ  
ブズ資料の整理・公開にかかる標準化・理論化  
を目指すことを目的としている。2019 年度の  
研究会は下記の通り。

### ■ 第 1 回

日時：2019 年 10 月 5 日

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー  
ドタワー 19 階 D 会議室

報告者：石原遼平氏（国際青年環境 NGO A  
SEED JAPAN）、吉田明子氏（国際環境

NGO FoE Japan）

「環境 NGO の活動と資料の管理・活用につ  
いて」

※公害資料館ネットワーク資料研究会との  
合同研究会として開催

## (3) 環境・労働問題研究会

代表者：鈴木玲（専任研究員）、会員 12 名

環境・労働問題研究会は、これまで別々に議  
論されてきた「労働」と「環境」（公害）の問  
題の結びつきを学際的に議論・学習すること  
を目指す。「有害物質は工場内では労働者が労働  
過程を通じて罹患する職業病として、工場外  
では環境汚染を通じて地域住民が罹患する公害  
病・健康被害として現れる」という問題意識を  
研究会の前提とするが、その問題意識から派生  
する様々な研究領域を取り上げていく。2019  
年度の研究会は下記の通り。

### ■ 第 16 回研究会

日時：2019 年 7 月 13 日（土）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー  
ド・タワー 19 階 D 会議室

報告者：鈴木玲（専任研究員）

「労働問題と環境問題をどのように結びつけ  
るのか：環境史、労働史、環境社会学の先行  
研究に基づいた視角と知見」

### ■ 第 17 回研究会

日時：2019 年 10 月 26 日（土）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー  
ド・タワー人間環境学部会議室

報告者：江頭説子氏（杏林大学）

「大気汚染公害患者運動と労働運動の諸相」  
（叢書の章の構想）

### ■ 第 18 回研究会

日時：2020 年 2 月 29 日（土）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナー  
ド・タワー 25 階 C 会議室

報告者：金美珍氏（客員研究員）



「韓国における労働安全保健運動——半導体労働者の健康と人権を守る会（パノリム）の取り組みを中心に」

#### （4）女性労働研究史研究会

代表者：藤原千沙（専任研究員）

主に1980年代以前の女性労働研究の蓄積を現代的な視点から検討することを目的に2014年度に発足。2019年度の研究会は下記の通り。

##### ■ 第1回

日時：2019年10月22日

場所：国立市商業協同組合

報告者：伍賀借子氏

「竹中恵美子先生卒寿記念フォーラム報告および出版計画」

報告者：藤原千沙

「子育ての生活資源保障と母子福祉」

報告者：北明美氏（福井県立大学看護福祉学部教授）

「幼児教育・保育の無償化と児童手当」

#### （5）大原社会政策研究会

代表者：藤原千沙（専任研究員）

雇用・労働問題や社会保障・社会福祉など広く社会政策の研究にかかわる学生・院生・研究者等の研究交流を通して大学や学部の枠を超えたネットワークの構築と調査・研究の発展および研究者育成支援を目的に2014年度に発足。2019年度の研究会は下記の通り。

##### ■ 第57回

日時：2019年4月18日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：浜野佑貴氏（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程）

「地域社会における子ども食堂の受容——X市団体運営者へのインタビュー調査から」

##### ■ 第58回

日時：2019年5月11日

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー19階D会議室

報告者：原田玄機氏（白梅学園大学非常勤講師）

「作業所の対象と担い手は誰であったのか——知的障害者の福祉的就労の成立に関する検討」

##### ■ 第59回

日時：2019年6月27日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：栗原和樹氏（一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程）

「教師の貧困観とその成立背景——貧困地域の小学校を事例に」

##### ■ 第60回

日時：2019年7月27日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

ヨハネス・キーナー氏（埼玉大学人文社会科学研究科准教授）

「住宅市場と生活保護——大阪市西成区の事例から」

##### ■ 第61回

日時：2019年8月30日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：渡邊健一氏（日本地域福祉研究所所員）

「『心のバリアフリー学習』とユニバーサルデザインのまちづくりに資する政策課題——バリアフリーを願い活動する当事者の逐語を手掛かりに」

##### ■ 第62回

日時：2019年9月14日

場所：丸本館（合宿研究会）

報告者：大澤優真氏（法政大学大学院人間社会研究科博士課程）

「外国人と生活保護をつなぐ論理」

■ 第 63 回

日時：2019 年 10 月 24 日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：朴東民氏（立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科博士後期課程）

「韓国の「子どもの貧困予防及び支援等に関する法律」の課題——主要事項の実施状況の分析を中心に」

■ 第 64 回

日時：2019 年 11 月 30 日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：金杉範子氏（城西国際大学大学院博士課程満期退学）

「農業パートに従事する女性のエンパワーメントの形態——農業パート女性の語りから」

■ 第 65 回

日時：2019 年 12 月 14 日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：平安名萌恵氏（立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫制博士課程）

「〈沖縄的状况〉で子どもを産み育てる意味——沖縄の非婚シングルマザーの生活史を中心に」

■ 第 66 回

日時：2020 年 1 月 30 日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：遠藤希和子氏（立正大学社会福祉学部助教）

「高齢社会のハウジング——Aging in Place の可能性を考える」

■ 第 67 回

日時：2020 年 2 月 6 日

場所：法政大学多摩キャンパス大原社会問題研究所会議室

報告者：藤原千沙

「子育ての生活資源保障に関する研究——「雇用を通じた生活保障」と母子福祉」

■ 第 68 回

日時：2020 年 3 月 21 日

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 19 階 D 会議室

報告者：小長井晶子氏（名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程）

「就学奨励構想をめぐる文部省と厚生省の政策的対立——1951 年の義務教育就学奨励法構想をめぐる」

(6) 無産政党資料研究会

代表：榎一江（専任研究員）

法政大学大原社会問題研究所は、戦前期の無産政党関係資料を多く所蔵しているが、政治史以外の研究で十分に活用されてきたとは言えない。本研究会は、政治史のみならず幅広い専門分野の研究者を組織して、戦前期無産政党の機関誌等を活用した新たな研究の興隆を目指して結成された。2019 年度の活動内容は下記の通り。

■ 研究会メンバーが編集協力および解題執筆を担当する『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』復刻版全 5 巻、別冊 1 のうち、第 1 回配本として、下記が刊行された。

第 1 巻『社会民衆新聞 1927～1929』

第 2 巻『社会民衆新聞 1929～1932』

三人社（2020 年 1 月）

■ 第 1 回研究会

日時：2019 年 8 月 23 日（金）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 25 階 C 会議室

1. 復刻について

2.『大原社会問題研究所雑誌』特集について  
報告者：福家崇洋氏（京都大学人文科学研究  
所准教授）

「社会大衆党結党関係資料の紹介」

報告者：杉本弘幸氏（大阪大学大学院文学研  
究科非常勤講師）

「社会民衆党市会議員の政治地盤に関する  
ノート——上田蟻善を事例に」

報告者：海妻径子氏（岩手大学人文社会科学  
部教授）

「社会主義右翼のジェンダー戦略：社会民衆  
党を例に」

報告者：立本紘之（兼任研究員）

「社会民衆党・社会大衆党と無産者芸術・文  
化活動」

#### ■第2回研究会

日時：2019年12月13日（金）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナ  
ード・タワー19階D会議室

報告者：杉本弘幸氏，海妻径子氏，  
福家崇洋氏，立本紘之

「2月5日メ切の原稿について」

(7)「子どもの労働と貧困」共同研究プロ  
ジェクト

代表者：原伸子（兼担研究員・法政大学経済  
学部教授）

本プロジェクトの課題は、1980年代以降の  
福祉国家の変容とグローバリゼーションのもと  
で質的・量的に拡大している「子どもの労働と  
貧困問題」を「社会問題」としてとらえ、その  
構造を理論的・歴史的・政策的に明らかにする  
ことである。

本プロジェクトでは、今年度、Jane Humphries,  
*Childhood and Child Labour in the British  
Industrial Revolution* (2010) (法政大学出版局  
より2020年度に邦訳書刊行予定)の翻訳作業  
を通して、イギリス産業革命期における子ども

の労働と生活問題に取り組んでいる。それはひ  
るがえって、現代における新自由主義的政策の  
もとでジェンダー格差と子どもの労働と貧困の  
問題が深刻化している実態を理解する手掛かり  
を与えてくれる。その成果は、『大原社会問題  
研究所雑誌』の企画特集論文として発表予定で  
ある。2019年度の活動は下記の通り。

#### ■第1回研究会

日時：2019年7月27日（土）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス ポアソナ  
ード・タワー19階D会議室

報告者：赤木誠氏（松山大学経済学部准教  
授），齊藤健太郎氏（京都産業大学経済学部  
教授），永島剛氏（専修大学経済学部教授），  
原伸子，山本千映氏（大阪大学経済学研究科  
教授）

「イギリス産業革命期における子ども・家族・  
労働——Jane Humphries, *Childhood and  
Child Labour in the British Industrial  
Revolution*, (2010) の翻訳グループによる報  
告」

(8)「労働組合法上の「労働者」に関する歴  
史的総括と新たな解釈の可能性」共同研究プロ  
ジェクト

代表者：沼田雅之（兼担研究員・法政大学法  
学部教授）

2019年度の活動は下記の通り。

#### ■第25回研究会

日時：2019年4月15日（月）

場所：法政大学法学部資料室内会議室

報告者：沼田雅之

「西谷説に関する報告・討議」

#### ■第26回研究会

日時：2019年6月17日（月）

場所：法政大学法学部資料室内会議室

報告者：藤木貴史氏（一橋大学大学院博士後  
期課程）

- 「文献収集状況の説明と学説の動向報告」
- 第 27 回研究会  
日時：2019 年 8 月 21 日（水）  
場所：法政大学法学部資料室内会議室  
報告者：深谷信夫氏（茨城大学人文学部教授）  
「総論原稿に関する報告・討議」
  - 第 28 回研究会  
日時：2019 年 11 月 13 日（水）  
場所：法政大学法学部資料室内会議室  
報告者：後藤究氏（中央大学大学院博士後期課程）  
「ドイツ留学の成果に関する経過報告・討議」
  - 第 29 回研究会  
日時：2020 年 1 月 22 日（水）  
場所：法政大学法学部資料室内会議室  
報告者：細川良氏（青山学院大学法学部教授）  
「土田説に関する報告・討議」
  - 第 30 回研究会  
日時：2020 年 3 月 9 日（月）  
場所：法政大学法学部資料室内会議室  
報告者：後藤究氏  
「菅野説・毛塚説に関する報告・討議」
  - 第 31 回研究会（「最高裁判決の再検討」プロジェクトとの合同研究会）  
日時：2020 年 3 月 28 日（土）、29 日（日）  
場所：宮崎産業大学  
※同研究会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。以下予定されていた内容。  
（3月28日）  
報告者：沼田雅之  
「第四銀行事件に関する報告・討議」  
報告者：細川良氏  
「朝日火災海上保険事件に関する報告・討議」  
（3月29日）  
報告者：古賀修平氏（宮崎産業大学講師）  
「日本食塩製造事件に関する報告・討議」

報告者：井川志郎氏（山口大学経済学部講師）

「日新製鋼事件に関する報告・討議」

（9）「冷戦期、ソ連・東欧社会主義圏と西側世界の文化・学術交流に関する史的考察」共同研究プロジェクト

代表者：進藤理香子（兼担研究員・法政大学経済学部教授）

2019 年度は表題のテーマに関し、法政大学大原社会問題研究所が主催し、ウクライナ国立科学アカデミー世界史研究所の協賛という形で東京・キエフ・クラカウの 3 都市同時に、日本、ウクライナ、ポーランド、ドイツの研究者によるスカイプを通じた国際セミナーを開催した。以下に記載した報告者以外に日本側からは鈴木玲専任研究員が臨席しディスカッションに参加した。またウクライナ側の報告者 4 人の他に 10 名ほどのアカデミー所属研究員らがキエフの会議室に臨席、意見交換を行った。東西陣営間の政治的対立の下、双方の文化学術交流は一体どのような役割を演じたのかとの問題に関して、ソ連、東ドイツの社会主義的文化政策の諸問題、日本—ソ連間、日本—東ドイツ間、ポーランド—東西ドイツ間の交流を事例に挙げつつ、国際的視野から重層的な比較を試みた。今後さらに研究を深める上で、また国際交流の振興という点からも今回の研究会は十分満足のゆくスタートとなった。

日時：2019 年 11 月 15 日

場所：東京開催地／法政大学市ヶ谷キャンパス ボアソナード・タワー 19 階 D 会議室

：ウクライナ開催地／キエフ・ウクライナ国立科学アカデミー世界史研究所

報告者：進藤理香子

「冷戦体制下のソ連東欧社会主義圏と西側世界間の文化政策的関係。その史的分析への導入——1960 年代の日本と東ドイツ間の学術

交流を事例に」

報告者：アンドレイ・クドリャチェンコ氏  
(ウクライナ国立科学アカデミー世界史研究所所長)

「ソ連と日本の学術交流」

報告者：原伸子(兼担研究員・法政大学経済学部)

「日本とソ連の学術交流。モスクワでの経験から」

報告者：ヴィクトリア・ソロシエンコ(ウクライナ国立科学アカデミー世界史研究所副所長)

「ソ連の文化政策とウクライナ問題」

報告者：フランク・リースナー氏(東京・日独協会)

「東ドイツの文化政策と東ドイツ文学」

報告者：ヴァシル・トカチェンコ氏(ウクライナ国立科学アカデミー)

「冷戦体制の欺瞞性」

報告者：アナ・ピョートルブスカ氏(ポーランド・クラカウ・ヤギェウォ大学)

「冷戦体制下ポーランドと東西ドイツ。音楽と政治」

報告者：オレ・オリーニク氏(ウクライナ国立科学アカデミー・2019年度法政大学客員教授)

「冷戦体制下のソ連と西側世界」

#### (10)「貧困と世論」共同研究プロジェクト

代表者：鈴木宗徳(兼担研究員・法政大学社会学部教授)

本共同研究プロジェクトは、次の三点を目的として研究活動を行った。①近年の貧困、福祉受給、福祉政策をめぐる世論の動向を分析し、そうした世論に影響を与える政治的・社会的要因を明らかにすること。②貧困や福祉を扱った新聞、テレビ、週刊誌、ネット上の報道を分析し、その言説編成の特徴とジャーナリズムの課

題について明らかにすること。③貧困や福祉をめぐる報道について海外の事例を分析し、そこでの報道と世論、報道と政治状況との関係を明らかにすること。2019年度の活動内容(研究会、論文)は下記の通り。

#### 【研究会】

##### ■第1回研究会

日時：2019年9月5日(木)

場所：首都大学東京 南大沢キャンパス

報告者：山田壮志郎氏(日本福祉大学社会福祉学部准教授)

「生活保護制度に対する厳格化志向の変化と関連要因——インターネット調査の結果から」

報告者：堀江孝司氏(首都大学東京人文社会学部教授)

「排外主義・反マイノリティ・家族規範と反福祉世論との関係」

報告者：小田川華子氏(首都大学東京人文社会学部教授)「貧困/人種をめぐる偏見に対するメディアの影響」

報告者：阿部彩氏(首都大学東京人文社会学部教授)

「テレビ視聴による偏見の除去と90年代アメリカの貧困報道の変化」

報告者：水島宏明氏(上智大学文学部教授)

「テレビの放送データを使った報道内容分析の可能性」

報告者：鈴木宗徳

「保守イデオロギーのなかの自己責任論/再分配反対論」

##### ■第2回研究会

日時：2020年1月26日(日)

場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

報告者：堀江孝司氏

「アメリカにおける権威主義的ポピュリズムの要因分析」

報告者：小田川華子氏

「ステレオタイプ的なメディア接触の影響について」

報告者：鈴木宗徳

「イギリスにおける排外主義と再分配に関する研究」

報告者：水島宏明氏

「ケアのジャーナリズムの可能性」

報告者：山田壮志郎氏

「公的扶助をめぐるテレビ視聴の影響について」

報告者：阿部彩氏

「JGSS のデータから見る 2000 年代以降の社会保障をめぐる世論」

#### 【論文】

鈴木宗徳

「福祉ショービニズムとコンディショナリティ——イギリス連立政権期の政策と世論をめぐる」『大原社会問題研究所雑誌』733号（2019年11月号）19-27頁

(11) 「日本資本主義論争の現代資本主義的地位相——ポスト〈68年〉における諸概念の再組織化」共同研究プロジェクト

代表者：長原豊（兼担研究員・法政大学経済学部教授）

#### ■ 第1回研究会

日時：2019年5月12日（日）

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス経済学部資料室

報告者：沖公祐氏（香川大学経済学部）

「日本資本主義論争に関する覚書——再生産論批判の観点から」

#### ■ 第1回打ち合わせ

日時：2019年5月12日（日）

場所：市ヶ谷

・今後の研究会のやり方について長原と Gavin Walker が議論し、資金面から当面の

間はネットによる議論の交換を行うこと。

・プロジェクトに「文学的視点」を導入するために専門家3名の参加を要請した（2019年12月）。

・今後、追加や削減など執筆陣のシャッフルを実行する予定（被差別問題をハイライトするために1名増員する予定）。

・当初予定した2020年3月上旬をメ切りとする寄稿論文のAbstract提出を「新たな状況」への対処として遅らせる決定。

・当面は各自の「作業」を行うこととした。なおメンバー構成員の主要な業績は下記の通り（なお専任研究員の業績は当研究所HP参照）。

#### 【長原豊】

『敗北と憶想——〈瑕疵存在の史的唯物論〉』航思社，2019年

#### 【沖公祐】

『経済学史——経済理論誕生の経緯をたどる』（野原慎司・高見典和との共著）日本評論社，2019年

#### 【宮澤隆義】

「資本主義という「戦争」——中野重治の戦時下批評から」『群像』，2019年6月

#### 【立尾真士】

「戦争を書くこと，詩を歌うこと——大岡昇平による中原中也」『中原中也研究』24号，2019年9月

#### 【位田将司】

「二人の「機械」——小林秀雄と横光利一」『横光利一研究』（18），2020年3月

#### 【中村勝己】

共訳（津崎良典）アントニオ・ネグリ『デカルト・ポリティコ——政治的存在論について』青土社，2019年

#### 【Ken C. Kawashima】

English translation of Uno Kozo's *Theory of Crisis*, Brill Press, forthcoming.

The translation also includes two essays, "On the Historical Impatience of Uno Kozo" (Kawashima) and "Surplus alongside Excess: Crisis, Imperialism, and Uno Kozo's *Theory of Crisis*" (Ken Kawashima and Gavin Walker)

**【Gavin Walker】**

"The Homeland(s) of Marxism: Labour Power, Race, and Nation after Capital" in *Capital in the East*, eds. Anjan Chakrabarti et al., Springer Publishing, 2019.

**【Katsuya Hirano】**

"Terra Nullius and the Modern Settler-Colonization of Ainu Mosir" in Tristan Grunow and Fuyubi Nakamura eds., *Hokkaidō 150: Settler Colonialism and Indigeneity in Modern Japan and Beyond in Critical Asian Studies* (London: Taylor and Francis, 2019)

**【Rebecca Kar】**

*China's Revolutions: From Then to Now*, London: Verso, 2019

## 8 100周年記念事業準備委員会・100年史編纂委員会

大原社会問題研究所は2019年2月9日に創立100周年を迎えるため、2015年11月から100年史編纂委員会・100周年記念事業準備委員会を立ち上げ、所長、副所長、専任研究員が委員となり、準備を行ってきた。今年度は、5月29日（第18回）、12月4日（第19回）に委員会を開催したほか、下記100周年記念事業を実施した。

■政治経済学・経済史学会 春季総合研究会「経済学部の成立と日本の学知」の協賛

6月15日、政治経済学・経済史学会春季学術大会の春季総合研究会「経済学部の成立と日

本の学知」(社会政策学会共催)が開催され、法政大学大原社会問題研究所はこれに協賛した。この企画は、2019年に創立100周年を迎える東大経済学部、京大経済学部、大原社会問題研究所の100年史担当者が一堂に会し、それぞれの調査研究を振り返り、学問の自由をめぐる国家との関係、帝大と民間研究所における学術研究のあり方を問いなおすという大原社会問題研究所からの提案に、小野塚知二氏(東京大学経済学部教授)、岡田知弘氏(京都大学経済学部教授)が呼応して、実現したものである。それぞれの報告(小野塚氏「東京帝国大学経済学部の創立と社会政策」、岡田氏「京都帝国大学経済学部の研究教育活動と国家・社会」、榎一江「大原社会問題研究所と初期社会調査」)は、『大原社会問題研究所雑誌』734号(2019年12月号)に掲載された。

### ■復刻事業

100周年記念事業の一環として、2つの復刻事業を準備してきた。まず、柏書房より刊行予定の産別会議資料は、全4期を4年間にわたりマイクロフィルムで刊行する計画で、すでに第1期分の資料29箱分の引き渡しを完了し、2019年秋から刊行開始の予定であったが、遅れている(担当は五十嵐千尋兼任研究員)。また、三人社より『社会民衆新聞』『社会大衆新聞』復刻版全5巻、別冊1を刊行する計画で、榎専任研究員を中心に無産政党資料研究会を組織し、準備を進めてきた。2020年1月、『社会民衆新聞・社会大衆新聞復刻版』第1回配本として、第1巻『社会民衆新聞1927～1929』、第2巻『社会民衆新聞1929～1932』が三人社より刊行された。

## 9 図書・資料の収集・整理、閲覧公開

図書・逐次刊行物の収集状況、年度末現在の総数は下記の通りである。

今年度も、多くの方々や機関から、図書・資

料を寄贈していただいた。感謝したい。

(1) 2019 年度中受入れ図書・逐次刊行物の  
内訳および年度末蔵書総数

図書(冊)	和書	洋書	計
購入	417	98	515
受贈	262	204	466
計	679	302	981
総数	140,595	55,015	195,610

雑誌(種)	日本語雑誌	外国語雑誌	計
購入	82	25	107
受贈	310	18	328
計	392	43	435
総数	12,936	1,236	14,172

新聞(種)	日本語新聞	外国語新聞	計
購入	10	0	10
受贈	142	1	143
計	152	1	153
総数	4,624	255	4,879

(注) 受贈数は、本年度中に整理登録したものに限り、本年度に寄贈を受けても未整理のものは含まれていない。

(2) コレクション等の受贈

- ・ 4月9日  
佐藤兵實氏より佐藤兵實資料(段ボール1箱)を受贈
- ・ 4月17日  
山本和重氏より「社会政策研究会記録(協定会資料)」1点を受贈
- ・ 11月5日  
塩之入安男氏より「丸子警報器労組関係資料」19箱を受贈

(3) 来館サービス

- ・ 開館日数 230 日
- ・ 閲覧者数 223 名 (うち学外者 166 名)

- ・ 館外貸出冊数 204 冊
- ・ 複写サービス  
(学内 21 件 568 枚, 学外 131 件 21,833 枚)
- (4) 非来館サービス
- ・ 複写サービス 19 件 237 枚
- (5) 所蔵資料の刊行物・ホームページ・授業等への提供 57 件 219 点  
(ポスター, 写真・ビラ, 教科書, 資料集, 新聞, 書籍, DVD など)
- (6) テレビ番組等マスコミへの資料提供  
9 件 16 点
- ・ NHK BS プレミアム「バカリズムの悪女伝説～伊藤野枝」(5 月 11 日放送)  
堺家・近藤家関係資料, 大杉栄アルバム写真画像 6 点を提供
- ・ NHK スペシャル「かくて“自由”は死せり～ある新聞と戦争への道～」(8 月 12 日放送)  
ビデオ資料の動画を提供
- ・ 日本テレビ「所さんの目がテン! 第 1499 回 焼きそばの科学」  
(2019 年 11 月 3 日放送)  
写真画像 1 点を提供
- ・ BS-TBS「関口宏のもう 1 度! 近現代」  
(2020 年 2 月 29 日放送)  
写真画像を 2 点提供
- (7) 展示会等への資料提供・特別貸出  
8 件 112 点
- ・ 公益財団法人奈良人権文化財団  
水平社博物館「水平社宣言をよむ——全国水平社の創立と人権宣言」  
写真画像 1 点を提供 (5 月～9 月)
- ・ 市立小樽文学館  
「いま, プロレタリア芸術が面白い! 知られざる昭和の大衆文化運動」  
戦前原資料 27 点を貸出。  
戦前原資料データ 26 点を提供 (7 月～8 月)
- ・ National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea「The Square: Art and Society in



Korea 1900-2019 Part 1」に戦前ポスター画像 30 点を提供 (10 月～2020 年 2 月)

・公益財団法人練馬区文化振興協会 練馬区立美術館

「津田青楓とあゆむ明治・大正・昭和」にポスター 4 点を貸出 (2020 年 2 月～4 月)

・ベルギー KU-LEUVEN 大学「Japan's Book Donation to the University of Louvain Japanese Cultural Identity and Modernity in the 1920s」

戦前戦後ポスター画像を 22 点提供

(2020 年 10 月～2021 年 1 月開催予定)

(8) 利用ガイダンス・授業との連携・協力

4 月 16 日 原伸子ゼミ (法政大学経済学部) 演習 28 名

(9) 見学来所

5 月 16 日 八王子自治研究センター 22 名

6 月 10 日 ネットワーク・市民アーカイブ 3 名

7 月 1 日 トルコサバニ大学 2 名

7 月 2 日 日本鉄道福祉事業協会・労働資料館 1 名

8 月 1 日 プリティッシュコロロンビア大学 1 名

10 月 7 日 アリゾナ州立大学 2 名

10 月 15 日 倉敷中央病院 1 名

(10) 資料の整理

資料に関しては、必要に応じて整理を進めている。各担当は以下の通りであるが、今年度は 100 周年記念展示とその図録の作成を優先して作業した。

整理継続中のもの (担当兼任研究員)

・産別会議資料 (五十嵐千尋)

・小森恵資料 (立本紘之)

・権田保之助資料 (新原淳弘)

・佐藤兵實資料 (新原)

・丸子警報器労働組合資料 (新原)

・協調会資料 (社会政策研究会記録) (新原)

・貴重書庫資料の再整理 (伊東林蔵)

目録データ入力 (担当者)

・組合大会資料入力 (田中敦子)

・大原の資料を提供した資料のリストの入力 (田中)

## 10 インターネットによる情報の提供 (ホームページ, データベースなど)

1996 年度より開設している研究所の WEB サイト「OISR.ORG」は年々新たな拡張を続け、名実ともに研究所の顔となっている。2015 年度には新サイトへの移行を実施した。2019 年度も『大原社会問題研究所雑誌』のコンテンツ公開, データベースの継続更新を行った。戦前, 戦後のポスター, ビラ類のタイトルの一部はすでに英訳され公開されているが, 今年度は, まだ英訳されていないポスター, ビラのタイトルの約 1,500 点の翻訳作業を行った。今後公開する予定である。

2019 年度は, 「堺・近藤関係資料」8,169 件, 「全造船機械関係資料」251 件, 「社会政策研究会記録 (協調会資料)」54 件が OISR.ORG 統合データベースに追加された。また, 『社会・労働運動大年表』データベースの 2019 年版 (2018 年 12 月 31 日まで) の更新などを行った。

なお, 2015 年度の新サイト移行後も, 研究所旧サイトの公開を継続していた (ただし更新はしていない)。しかし, 旧サイトのサーバーの維持が困難になったため, 5 月 14 日に旧サイトの公開を停止した。研究所所蔵資料の英文での展示など旧サイトでしか閲覧できないコンテンツが存在しており, 今後これらのコンテンツを新サイトに移行させることが課題となっている。

## 11 対外活動・社会支援等

研究所は, 法政大学における国際的な交流の窓口のひとつとして今年度も活発に活動した。

また、国内においても他の学会、労働問題研究機関、大学の付置研究所、図書館、文書館などとの交流・連携に力を入れている。本年度の対外活動等は以下の通りである。

#### (1) 海外交流

##### ① IALHI との交流

大原社会問題研究所は、The International Association of Labour History Institutions (IALHI) の日本の唯一の参加団体である。IALHI 第 50 回大会が 2019 年 9 月 11～14 日にスペイン・マドリッド近郊の Alca de Henares で開催され、鈴木所長が参加した。大会のテーマは“Archives and libraries as actors in commemorative culture”であり、鈴木所長は“Politicization of Commemorative Events of Atomic Bomb Victims”をテーマに 1950 年代後半から 60 年代前半の日本の原水爆禁止運動内の政治的対立と分裂について研究所所蔵資料を使い報告した。

##### ② 客員研究員の受け入れ

Andrew D. Gordon (アメリカ・ハーバード大学教授) 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日  
Yijin Kim, Ph.D. Candidate (History of Art and Archaeology, SOAS, University of London) 2019 年 9 月～2020 年 9 月

#### (2) 国内諸資料保存機関・研究機関などとの交流・研修

国内の研究機関、図書館、文書館などとの交流は、研究所の重要な活動のひとつである。当研究所が機関として加入しているのは、社会・労働関係資料センター連絡協議会、日本図書館協会、公害資料館ネットワークである。

##### ① 社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）

労働資料協は、全国の労働関係の資料を収集している図書館・研究所など 20 余の機関が、労働関係資料の保全を図るために設立したもの

である。事業としては、相互の連携協力、図書・資料のリユース・相互交換、図書資料の相互利用、ホームページによる情報公開、メーリングリストの運用などを行っている。

2019 年度総会・研修会（11 月 12～13 日）は大阪府立労働センター（エル・おおさか）などで開催された。1 日目は、総会（活動報告、会計報告、予算審議、活動方針等を議論）および研修・見学「エル・ライブラリーの資料とその活用」, 「大阪社会運動顕彰塔 50 年の歴史」が行われた。2 日目の研修会では、大阪社会運動顕彰塔（大阪城公園内）、大阪府立中央図書館、大阪府立中之島図書館、および関西沖縄文庫を視察・見学した。鈴木玲、榎、藤原専任研究員が参加した。

##### ② 日本図書館協会

機関会員として加盟し、機関誌の購読をしている。

##### ③ 公害資料館ネットワーク

公害資料館ネットワークは、公害教育を実施している組織の交流を図ることを目的として 2013 年に結成され、団体会員ならびに個人会員等により構成されている。同ネットワークでは年 1 回の「公害資料館連携フォーラム」や各種の研究会を開催し、公害資料館にかかわる現状や課題について議論している。2019 年度は、同ネットワーク資料分科会と環境・市民活動アーカイブズ資料整理研究会が合同で研究会を開催した（10 月 5 日）ほか、「第 7 回公害資料館連携フォーラム in 倉敷」（12 月 13～15 日）の企画運営・準備等に参画した。

## 12 外部資金・寄付

### (1) 外部資金（文部科学省科学研究費助成事業）

文部科学省科学研究費助成事業では、「富岡製糸場における女性労働環境の変容に関する史的研究」（代表者：榎専任研究員）（2019～21

年度) (総額 250 万円, 19 年度は 100 万円), 「地方自治体のひとり親家族政策に関する研究」(代表者: 藤原専任研究員) (2019 ~ 22 年度) (総額 160 万円, 19 年度は 40 万円), 「公害関係資料の適切な管理と公開に関する研究: アーカイブズ学の観点から」(代表者: 清水専任研究員) (2019 ~ 2021 年度) (総額 230 万円, 19 年度は 80 万円), 「福祉スティグマの実態とその背景にある保守イデオロギーについての総合的研究」(代表: 鈴木宗徳兼担研究員) (2017 ~ 19 年度) (総額 190 万円, 19 年度は 60 万円), 「昭和戦時期の体制秩序と戦時平時の政治経済体制の総合的研究」(代表者: 米山忠寛客員研究員) (2019 ~ 21 年度) (総額 280 万円, 19 年度は 100 万円), 「日本におけるクィア神学の文脈化をめぐる研究——『解放の神学』アプローチの可能性」(堀江有里客員研究員) (2017 ~ 19 年度) (総額 310 万円, 19 年度は 100 万円) を獲得した。

また, 大原社会問題研究所は「私立大学等経常費補助金特別補助・個性化推進特別経費・研究施設」の対象として, 文部科学省より経常経費の概ね二分の一の補助を受けている。

## (2) 指定寄付

2008 年度から開始した「リーディング・ユニバーシティー法政」募金の一環として, 大原社会問題研究所宛の指定寄付金として, 2019 年度は 7 件 3,563,000 円の寄付をいただいた。

2019 年度は, 大原社会問題研究所創立 100 周年・法政大学合併 70 周年記念シンポジウムの記録・保存に必要な経費として 63,180 円支出した。

## 13 人事

\*印は 2019 年度新任者

( ) 内は年度内着退月日

所長 鈴木 玲  
副所長 鈴木 宗徳

名誉研究員 相田 利雄  
五十嵐 仁  
二村 一夫  
早川 征一郎  
嶺 学

専任研究員 鈴木 玲  
榎 一江  
藤原 千沙  
清水 善仁

兼担研究員 荒井 容子 (社会学部教授)  
岩田 美香  
(現代福祉学部教授)  
\* 堅田 香緒里  
(社会学部准教授)  
\* 進藤 理香子 (経済学部教授)  
鈴木 宗徳 (社会学部教授)  
\* 長原 豊 (経済学部教授)  
沼田 雅之 (法学部教授)  
原 伸子 (経済学部教授)

兼任研究員 五十嵐 千尋  
\* 伊東 久智 (~ 2019.11.30)  
伊東 林蔵  
大和田 悠太  
立本 紘之  
新原 淳弘  
根岸 海馬  
松尾 純子

客員研究員 Andrew D. Gordon  
\* 金 怡 辰 (2019.9.1 ~)  
\* 金 美 珍 (2019.5.29 ~)  
堀江 有里  
米山 忠寛

研究補助員 瀬尾 華子

\*長谷川達朗 (2019.8 ~)

宮崎 翔一

嘱託研究員 (115 名)

阿川 千尋 浅見 和彦 天岡 秀雄  
 雨宮 昭一 荒川 章二 飯田 未希  
 石栗 伸郎 石坂 悦男 板橋 亮平  
 伊藤 周平 今泉裕美子 岩切 道雄  
 内山 哲朗 梅澤 昇平 梅田 俊英  
 江頭 説子 大島 隆代 大谷 栄一  
 大友 優子 大平 佳男 岡田 一郎  
 岡野 内正 岡本 英男 音無 通宏  
 海妻 径子 兼子 諭 金子 征史  
 金子 良事 亀田 利光 川上 忠雄  
 川口 智彦 \*喜多川 進 木下 真志  
 木下 順 金 慶 南 金 直 洙  
 金 鎔 基 木村 英昭 \*木矢 幸孝  
 小磯 明 小関 隆志 \*後藤 浩子  
 小林 直毅 小林 良暢 佐伯 哲朗  
 坂本 博 眞田 康弘 塩見 英治  
 篠田 徹 篠原 佑美 渋谷 淳一  
 下夷 美幸 白井 邦彦 \*愼 蒼 宇

須藤 春夫 藺田 碩哉 祖父江利衛  
 高江洲昌哉 高瀬 久直 高橋 裕一  
 田中 紘一 田中千香子 鄭 育 子  
 鄭 章 淵 中川 功 中澤 秀一  
 中筋 直哉 永田 瞬 中根 康裕  
 長峰登記夫 南雲 和夫 西田 善行  
 仁平 典宏 根岸 秀世 野口由里子  
 野村 一夫 橋本美由紀 畠中 亨  
 浜村 彰 兵頭 淳史 平尾 直樹  
 平澤 純子 平塚 眞樹 平山 勉  
 布川日佐史 藤田 理雄 藤本 茂  
 船木 恵子 堀内 光子 \*洪 昌 極  
 前原 直子 枘田大知彦 松下 優一  
 松波 淳也 宮内 良樹 三宅 明正  
 宮島 喬 宮村 重徳 森 隆男  
 森 廣正 山縣 宏寿 山口 道宏  
 山田 雅穂 山本 馨 山本 健兒  
 横関 至 横田 伸子 吉田 健二  
 吉田 茂 吉村 真子 米谷 匡史  
 李 相 旭 廉東 浩 若杉 隆志  
 渡辺 悦次

以上